

●第 37 回地盤震動シンポジウム●

地盤震動研究から見た長周期地震動——どこまで解明されて何が課題か？

<主催> 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

近年、南海トラフ沿いで発生する海溝型巨大地震の切迫性が指摘されている。この種の地震は長周期地震動を強く励起することから、首都圏・中部圏・近畿圏に存在する超高層・免震構造物の耐震安全性が社会的関心を集めている。現在、最新の知見を反映した長周期地震動の検討が複数実施されているものの、同一の震源と地点であっても評価結果が異なるなど、解決すべき課題も多い。地震動評価結果をサイト波や耐震安全性の検討に用いるには、波動伝播の計算法の特徴や地下構造モデルの設定法とそれらの精度を理解することが重要である。本シンポジウムでは現在行われている長周期地震動予測を紹介し、地盤震動研究から見て長周期地震動はどこまで解明され、何が課題かを研究者と実務者を交えて議論する。

日 時 : 2009 年 11 月 27 日 (金) 10:00~17:30

会 場 : 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

内 容

【午前の部】

司会：釜江克宏（京都大学）・松島信一（京都大学）

1 主旨説明 10:00~10:10

：加藤研一（小委員会主査／鹿島建設）

2 長周期地震動研究および予測の現状 10:10~12:00

2-1 長周期地震動研究のレビューと課題 : 座間信作（総務省消防庁）

2-2 地震本部による長周期地震動予測地図の試作版 : 額額一起（東京大学）

2-3 設計用長周期地震動としてのサイト波の標準的作成手法の検討

: 小山 信（建築研究所）

2-4 経験的手法に基づく巨大海溝型地震による長周期時刻歴波形の予測

: 佐藤智美（大崎総合研究所）

【午後の部】

司会：高井伸雄（北海道大学）・大野 晋（東北大学）

3 特別講演「東京での長周期地震動と高層建物への影響」 13:00~14:00

: 翠川三郎（東京工業大学）

4 長周期地震動予測に用いる地下構造モデルの現状と課題 14:00~16:30 [休憩 15:00~15:10]

4-1 地震記録を用いた琵琶湖地域における 3 次元速度構造モデルの構築 : 鈴木晴彦（応用地質）

4-2 新宿付近で見られる長周期パルス波の成因と伝播 : 早川俊彦（三菱スペースソフト）

4-3 三次元地下構造モデルを用いた強震動シミュレーションにおける表層地盤の取り扱い

: 山中浩明（小委員会幹事／東京工業大学）

4-4 地下構造モデルの差が関東平野の長周期地震動計算に及ぼす影響

: 早川 崇（清水建設）

4-5 震源モデル及び地下構造モデルの差が大阪平野の予測長周期地震動に及ぼす影響

: 岩田知孝（京都大学）

4-6 大阪平野の長周期地震動予測と超高層ビルの応答 : 中川佳久（安井建築設計事務所）

5 総合討論「長周期地震動——どこまで解明されて何が課題か？」 16:30~17:15

司会：永野正行（東京理科大学）・上林宏敏（京都大学）

6 まとめ 17:15~17:30

: 野畑有秀（大林組）

記録：藤本一雄（千葉科学大学）

定 員 : 200 名 (当日会場先着順)

参加費 : 会員 5,000 円、登録メンバー 5,500 円、会員外 6,000 円、学生 3,000 円
*資料代 3,000 円含む

問合せ : 事務局研究事業グループ 伏見